

# 宮城県林業普及活動情報

2025. 11月号 No. 210

## もくじ

### 各地の林業普及活動情報

P 2 ~ 8

○丸森町産たけのこ出荷等に関する打合せ	(大河原地方振興事務所)
○原木しいたけPRイベントを開催	(仙台地方振興事務所)
○「木樽プロジェクト」に伴う木材利用を推進	(仙台地方振興事務所)
○おおさき山がっこ自然体験教室	(北部地方振興事務所)
○おおさき森林・林業ふれあい展	(北部地方振興事務所)
○葛根の採取と葛粉商品化の検討	(北部地方振興事務所)
○菌床きのこ生産事業者に対する経営指導	(北部地方振興事務所栗原地域事務所)
○「松くい虫被害木調査」の実施	(東部地方振興事務所)
○「原木しいたけ試食販売会」への支援	(東部地方振興事務所登米地域事務所)
○「生物多様性モニタリング調査」の実施	(東部地方振興事務所登米地域事務所)
○2025南三陸産業フェアの開催	(気仙沼地方振興事務所)
○地場産品直売会 in 宮城県気仙沼合同庁舎の開催	(気仙沼地方振興事務所)
○令和7年度伐木等の業務労働安全衛生特別教育（第1日目／3日）を開催	(林業技術総合センター)

## 丸森町産たけのこ出荷等に関する打合せ

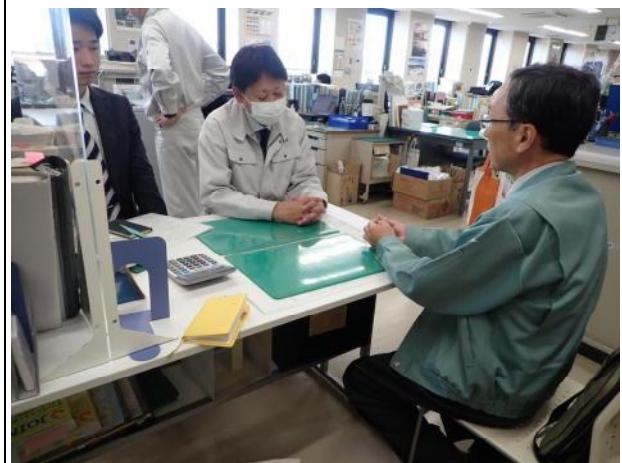
大河原地方振興事務所

【28日(金)】

丸森町内産たけのこについて、令和4年度から条件付きで出荷制限解除となっている3地区について、今後の進め方について町の担当者と打合せを行いました。

その結果、放射性物質の低減化傾向が確認されていることから、事務所が実施する令和8年度のモニタリング調査の結果により、出荷制限解除の手続きを進めることになりました。

引き続き、町や生産者等と連携しながら、安全・安心で美味しいたけのこを皆さんにお届けできるよう取り組んで行きたいと思います。



【打合せの様子】

## 原木しいたけPRイベントを開催

仙台地方振興事務所

【2日(日)】

原木しいたけの安全性のPR、消費拡大を図るため、仙台市と大和町においてPRイベントを開催しました。各市町の露地栽培原木しいたけ生産推進協議会と連携し、仙台市は秋保ヴィレッジアグリエの森、大和町はたいわ産業まつりにブースを設け、原木しいたけの販売や植菌体験を実施しました。

両イベント合わせて110組の方に植菌体験にご参加いただき、原木しいたけ栽培に触れてもらうことで、原木しいたけについて広くPRすることができました。

引き続き、原木しいたけの更なる消費拡大、認知向上を図るため、生産者をはじめとした関係機関と連携し、PR活動等の支援を行います。



【秋保ヴィレッジ】



【たいわ産業まつり】

## 「木樽プロジェクト」に伴う木材利用を推進

仙台地方振興事務所

【11日(火)】

県産材で製作する木樽の普及を図るため、他管内の木材加工業者と共に、管内のワイナリーを訪問し、木樽プロジェクトの趣旨等を説明した上で、工場内の木樽を見学しました。

補助事業を活用して木樽を試作している石巻市の木材加工業者である「丸勝モルダー特殊加工」に同行してもらい、大和町の「了美ワイナリー」を訪問しました。ワイン用木樽に求める性能や製造工程等を情報収集すると共に、木樽プロジェクトの趣旨等を説明しました。今回両者のマッチングを通して、「了美ワイナリー」が「丸勝モルダー特殊加工」に中古樽を提供したことで、更なる木樽製造技術の向上を期待すると共に、みやぎの木材利用を推進していきます。



【木樽プロジェクトの様子】

## おおさき山がっこ自然体験教室

北部地方振興事務所

【6日(木)】

体験会は、小学1年生を対象とした林内散策で、公園内の木々や植物を観察し、発見を通して自然の豊かさを学びました。

児童18名が参加し、おおさき山がっこサポーターの説明を聞きながら松ぼっくりを採取したり、ウルシの葉を観察して、元気に自然の中で歓声をあげていました。



【イチョウの葉を集めました】

## おおさき森林・林業ふれあい展

北部地方振興事務所

【16日(日)】

一般県民を対象として、木材利用推進を目的とした木育イベントを実施しました。

木工工作体験では25名（11グループ）がミニツリーやリースの見本を参考に思い思いで制作し、子供たちの作品には目を引くものがありました。じっくりと制作することができ、満足気に作品を持ち帰ることが出来ました。また、木材加工では、岩出山林業研究会と協力して、木材加工や制作手順を



【ツリーに色塗り】

指導しました。

集客には、会場入り口付近に設置した2m程の「でかツリー」と「イベント案内パネル」に引き寄せられたとの声が多く、次回イベントの参考となりました。

## 葛根の採取と葛粉商品化の検討

北部地方振興事務所

【28日(金)】

クズは造林地では植栽木への被圧や絡まりをもたらしますが、その地下茎は古くから葛粉等に加工され、重宝されていました。クズ被害拡大防止と特用林産物としての収穫を目指し、森林所有者と取組について検討しながら地下茎を採取、加工することに取り組みました。



【良質な葛根が採れました】

## 菌床きのこ生産事業者に対する経営指導

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【6日(木)】

管内では、シイタケ、ナメコなど菌床きのこ栽培が盛んであり、事業者により生産された製品は県内の小売店などに出荷され、多くの県民の食に供されています。

そこで、近年の物価高騰や人手不足等による事業者への経営圧迫に対し、補助金の活用を提案しつつ、なお一層の経営改善を求めているところです。

その一環として、一部事業者が受けている経営診断（定例指導）に同席し、事業者に寄り添ったサポートを継続しています。

今月も、事業者とともに資材購入や出荷等に係る事務処理の整理、単価設定をはじめとする販売収入増加に向けた取組と生産経費削減に向けた意見交換を実施しました。



【資材購入や製品出荷の管理について確認】

## 「松くい虫被害木調査」の実施 東部地方振興事務所

【7日(金)】

東松島市宮戸地区において、松林の保全を図るため、関係機関と合同で松くい虫の被害木調査を行いました。

特別名勝松島の景勝地である東松島市宮戸地区の被害木調査を関係機関と合同で行い、被害木の現状把握と適切な防除方法について、共有を図ることができました。

今後の秋冬の伐倒駆除を適切に実施するため、東松島市及び受注者である森林組合に対して、調査結果に基づき計画的に伐採が行われるよう指導し、理解が得られました。



【被害木調査の様子】

## 「原木しいたけ試食販売会」への支援 東部地方振興事務所登米地域事務所

【1日(土)】

原木しいたけ生産者の販路拡大を支援するため、消費者との交流を目的としていよいよみやぎが主催する「Wa!わあ祭り 2025 (生産者、消費者交流会)」への出展を支援しました。

当日は、焼きしいたけの試食やしいたけの発生した原木の展示をとおして、消費者へ直に栽培方法や放射性物質汚染対策の実施による安全・安心な生産物の流通確保について説明することができました。

販売用に用意したしいたけ 400 袋は交流会終了を待たずに売り切れとなる盛況なイベントとなりました。



【原木展示と来場者】



【試食販売の状況】

## 「生物多様性モニタリング調査」の実施

東部地方振興事務所登米地域事務所  
【20日(木)】

FSCジャパンが推進する森林認証制度では、適正な森林管理に向けた様々な指標に基づく基準が設けられており、その中に「生物多様性の確保」とその達成に向けた取組が位置づけられている。

これまで、登米市森林管理協議会では独自の調査により取組を進めてきたが、この度、NECソリューションイノベータ株式会社が新たに計画する生物多様性モニタリング調査と連携し、登米市内の森林等の生物多様性をモニタリングすることとし、共同で現地調査を実施しました。また、NECの研究者からモニタリング調査と検体採取の方法の説明を受け、来年度からの実施に向けデモンストレーションを行いました。



【モニタリング調査】



【適地に関する意見交換】

## 2025南三陸産業フェアの開催

気仙沼地方振興事務所

【3日(月)】

南三陸町が主催する「2025南三陸産業フェア」が開催され、林業部会ブースにおいて、「特用林産物の試食（南三陸町産菌床しいたけを使用した唐揚げ）」・「なりきり林業キッズ体験」・「モルック体験」・「地元ゆるキャラ顔はめパネル」の他に、各種取組を体験された方に木製ガチャガチャによる林業PRオリジナルグッズの配布を行いました。

本フェアには、近年ブース出展はしておらず、今回、新たな取り組みとして参加したものであり、その中でも特に「しいたけの唐揚げ」が非常に人気であり、しいたけの唐揚げ？というありそうで無かった珍しい取り合せと、病みつきになる味付けにリピーターが現れるなど大好評でした。

作り方は簡単、「南三陸町産菌床しいたけ（重要）」の軸を取り、1/4にカット、市販の唐揚げ粉をまぶし、170℃～180℃の油でカラッと揚げるだけですので、ぜひお試し下さい。



【なりきり林業キッズ体験】



【しいたけの唐揚げ試食】

## 地場産品直売会 in 宮城県気仙沼合同庁舎の開催

気仙沼地方振興事務所

【14日(金)】

管内の特産品 PR を兼ねた地場産品直売会が気仙沼合同庁舎において開催され、「気仙沼市産メンマや自然薯、キクラゲ等の出店団体の販売支援を行いました。

当直売会は、通常、合同庁舎 1 階ロビーにおいて 3~4 団体により開催されておりますが、今回は合同庁舎大会議室を会場として、出店数も計 7 団体、同日開催イベントも企画されるなど盛大に開催され、来場者も多く売れ行きは好調で、大半の品物が完売となっていました。

当所としては、会場準備や販売促進ポップの作成など販売支援をするとともに、気仙沼市産メンマの特設コーナーを設置し、生産工程や試食メニューなど来場者に PR を図りました<生産してみたい方募集中です>。また、今回販売された気仙沼市産メンマや自然薯、キクラゲ等の特用林産物は、軽トラ市（新月 PA 及び本吉 PA）や道の駅大谷海岸、産直菜果好等で販売中ですので、みかけた際にはぜひお買い求めください。



【直売会の様子(キタザワ花園)】



【直売会の様子(熊谷洋子・熊谷都)】



【直売会の様子(三浦光雄)】

## 令和7年度伐木等の業務労働安全衛生特別教育（第1日目／3日）を開催

林業技術総合センター

【26日（水）】

県林務職員が、現場においてチェーンソー作業を実施する際に、労働基準法で事業者に求められる義務と同等の責務を確保するため、9名の受講者を得て、労働基準法に規定する標記特別教育の6時間分を実施しました。

カリキュラムは必要教程のうち、「関係法令」（1時間）、「振動障害及びその予防に関する知識」（2時間）、「チェーンソーに関する知識」（2時間）「伐木作業に関する知識」（1時間）を実施しました。講義内容は、テキスト「チェーンソー作業の安全ナビ」のカリキュラムに対応した章に沿い、スライドを用いて説明しました。また、地方公務員災害補償法・ISO 5349-1・チェーンソー取扱説明書・スプルケットとガイドバーとソーチェンの規格適合、チェーンソーの分解組み立てによる構造理解について補完するとともに、机上において縦横のA4用紙に、深さ1/4と1/3の受け口に追い口を左右からそれぞれ記入いただき、深さの感覚を養うと同時に、腰の移動による伐倒基本動作を学習いただき、紙を必要回数折り返し、筆記した内容の成否を確認してもらいました。



【チェーンソー分解組み立ての様子】



【A4コピー用紙を用いた受け口・追い口の作成動作の練習】